

「（仮称）札幌短編映画祭」プレイベントの開催について

平成 13 年 4 月に開設された札幌市デジタル創造プラザ（インタークロス・クリエイティブ・センター）では、クリエイティブ分野におけるクリエイターの育成、起業家支援事業等を実施し、当該施設に入居するクリエイターの技術向上、ネットワークの構築を図っているところだ。

中でもショートムービーの分野は、札幌から海外の映画祭で受賞する監督が輩出されたほか、札幌で開催された映画祭も活況を呈するなど、1つの産業として、その将来性が大いに期待されます。

こうしたことから、本市では、ショートムービーの産業化を推進するため、平成 18 年度に短編映画祭を札幌で開催すべく、現在、調査・準備を進めており、今年度は映画祭に向けたプレイベントとしてフォーラムを開催いたします。

クリエイティブ分野

個人の創造性・スキル・才能に基盤を置き、知的資産によって価値を生産する分野。デザイン、音楽、建築、ファッション、映画、演劇、アート、工芸、ソフトウェア、コンピューターゲーム、テレビ・ラジオ、広告、出版等
ショートムービー（ショートフィルム）

長くて30分、短いものはわずか1分の「ショートムービー」は、日本では「短編映画」と訳されるが、映像文化の先進国・アメリカやショートムービーの歴史が長いヨーロッパでは、通常の映画とは区別され、映像表現のジャンルとして確立している。その例として、映画界の最高の賞であるアカデミー賞に「ショートフィルム部門」が設けられている。

短い時間に監督やクリエイターのメッセージが凝縮され、長編映画と違った魅力と可能性に満ちあふれている。実写によるストーリーもののほか、アニメーション、ドキュメンタリー、コンピューターグラフィックスなど、表現方法は多彩で、通常の映画にはない強いメッセージが伝わってくるのが特徴。

1 事業の趣旨

「ショートショート フィルムフェスティバル 2005 in 北海道」（平成 17 年 7 月 3 日～9 日、札幌ショートショート実行委員会主催）開催中に、平成 18 年度に本市主催で開催予定の短編映画祭のプレイベントとして、国内外の映画関係者をゲストに迎えるためのフォーラムを開催し、ショートムービーの産業化推進への第 1 歩とします。

ショートショート フィルムフェスティバル

本格的な短編映画を特集する映画祭としては日本で初めてのものであり、昨年、アカデミー賞公認の映画祭として認定を受け、世界につながる映画祭となった。全国 7 都市、8 会場に広がり、1999 年以來 12 万人以上の観客を動員している。

今年 6 回目を迎える北海道（札幌）では、昨年、東京を上回る 5,500 人を動員。北海道におけるショートムービーの普及のけん引役として知られてきており、地域の独自性と全国的・世界的なネットワークを持つ強力な映画祭へと飛躍を続けている。

2 主催 札幌市

3 開催概要

（1）国際映画フォーラム「国際映画祭の役割と可能性」

日時

平成 17 年 7 月 4 日（月）15:00～16:30

会場

アーバンホール（中央区南 3 条西 4 丁目アーバン札幌ビル 7 階）

ゲスト

デレク・ゼムラック氏（C I F F 創始者・アメリカ）

ロイストン・タン氏（映画監督・シンガポール）

他映画祭関係者

C I F F

サンフランシスコ郊外 Livermore（リバモア）で開催される「カリフォルニア・インディペンデント・フィルム・フェスティバル」の略称。独立系若手映画監督の作品を上映する短編映画祭で、今年7年目を迎える。「ショートショート フィルムフェスティバル in 北海道」とは姉妹フェスティバル。

内 容

「ショートショート フィルムフェスティバル in 北海道」の姉妹映画祭である C I F F の創始者、デレク・ゼムラック氏を交えて、国際映画祭の運営や効果など、映画祭の役割とその可能性や、今後の札幌の映画祭の方向性、具体的な活動方法について探る。

（２）フィルムメーカーフォーラム「フィルムメーカーにとっての映画祭とは？」

日 時

平成 17 年 7 月 7 日（木）15：00～16：30

会 場

アーバンホール（中央区南 3 条西 4 丁目アーバン札幌ビル 7 階）

ゲスト

フランシス・コキュー氏（映画監督・フランス）

マハディー・フレイフェル氏（映画監督・レバノン）

ルナー・ルナソン（映画監督・アイスランド）

東野 誠剛氏（映画祭プロデューサー・日本）

他地元監督

内 容

映画監督や脚本家など、ショートフィルムメーカーが札幌からも多く誕生し、活躍している。世界のフィルムメーカーにとっての映画祭の役割や効果について、地元映画監督も交えて語り合う。

【なぜ、札幌でショートムービーなのか？】

これまでショートムービーは、若手映画監督がメジャーデビューする前の登竜門的な作品として扱われてきましたが、現在は、ブロードバンドの普及、放送のデジタル化、モバイルコンテンツサービスの多様化等を背景に、ショートムービーそれ自体の作品価値が高まり、1つの産業として確立する可能性を秘めています。

しかし、ショートムービーに対する期待は高まりつつも、それを取引する市場はまだまだ存在していません。こうした中、同分野に優位性を持つ札幌が世界に先駆けてショートムービーの市場性を開拓し、ショートムービー産業で強固な立場を確立することは極めて重要です。

また、ショートムービーの制作には、映像、音楽、脚本、コンピューターグラフィック、デザイン等、多様なクリエイティブ技術が必要であることから、ショートムービー産業の育成を通じて、多様な分野のクリエイターの技術向上が期待されます。